



# 一日一前

校長室通信

第 13 号

平成30年5月10日

5月 — 北海道開拓判官 島 義勇 —



十数年前に北海道神宮に初詣に行ったときに、神宮の神門前に建立された「島 義勇（しま よしたけ）」の像を見たことがありました。そのときはおそらく何かで貢献した人なのだろうとしか考えませんでした。それが昨年、本校の図書館で「島 義勇伝」という漫画本を見つけ、読んでみると、とても興味深い内容で、北海道や札幌の基礎を築いた偉大な人物だと知りました。また先月、この本が札幌の小中学校で推薦図書に指定されたことをラジオで知り、さらにテレビでも特集番組が放映され、島 義勇の功績が再びクローズアップされています。

島 義勇は佐賀藩の武士で、明治2年に藩主 鍋島直正の命により、蝦夷地と呼ばれてきた北海道に赴任しました。この頃、外国の船がやってくるようになり、北海道の守りや開拓が急務となります。彼は武勇に優れ、頭脳明晰、人徳も備わり、単身で任地に赴くべき不便で危険な土地に、覚悟を持って妻子と共に開拓判官として着任します。そして、東京・大阪・京都と並ぶ、またそれ以上の世界一の大都市をこの地に造ろうとする壮大なビジョンを持ち、各方面から北海道に関する知識を持つ人材が集められ、島が主導して開拓使の方針を決めて行きました。

約150年前は原野であった札幌をこれだけ大きな都市に発展されることができたのは島 義勇の功績が大きく、彼の都市造り構想が今に生かされているからです。札幌をしっかりと造りながら、北海道全体を造るとする都市計画は成功し、農業・漁業を中心とした産業振興、庁舎や民家等の地域造り、東西南北へ向かう交通網整備など開拓は急ピッチで進みました。

同じ時期に蝦夷地に派遣されていた人物の中に、蝦夷地全域を徒歩で調査した松浦武四郎がおりました。明治維新後に蝦夷地研究の第一人者として蝦夷地開拓の職に就き、松浦は「蝦夷地」から「北海道」と命名した名付け親となりました。島は松浦を尊敬し開拓方針について相談し、また松浦は島に自分の知識を伝え、二人は北海道や札幌の将来を語り合いました。

それから100年後の1967年、私が小学校2年の時に、北海道命名100年と札幌市創建100年を盛大に祝い、記念式典や大博覧会が開催されました。子供でしたので、記憶の中で衝撃的だったものは、大博覧会で臨時に建設され、北海道人が初めて見た、乗ったというジェットコースターでした。1969年には北海道百年記念塔が野幌森林公園に建設され、同時に札幌の人口が100万人を超えました。1971年には日本で4番目の地下鉄が北24条～真駒内間を走ることになり、1972年には冬季五輪が開催されました。私の小学校時代は毎年、北海道で華やかなニュースが流れ、100年で北海道・札幌が確実に発展したことを喜び合いました。

今年はそのから50年が経ち、北海道命名と札幌市創建150年の年となりました。開拓者達が原野や原始の密林を切り開き、風雪に耐え抜いて北海道発展の基礎を築いてくれたお陰で北海道はここまでできました。そして北海道と札幌の200年目に向かって、さらに発展していくには何が必要なのか、本校生徒にも考えさせたいテーマです。そして、少子高齢化や過疎化の問題を解決でき、新しい北海道を造ることができる「これからの時代の島 義勇」が現れることを期待したいと思います。私は世界一への都市造りはまだ進行中だと思っています。

